

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472700414		
法人名	医療法人 桜木記念病院		
事業所名	グループホーム 桜木さん		
所在地	三重県多気郡多気町大字仁田ヲシ山670-20		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 3 日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosyoCd=2472700414-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4 年 12 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周囲に自然が多くあり、入所者と職員が周囲と一緒に散歩やドライブ等でまわっている。それにより、気候や季節の移り変わりを会話以外でも全身で感じて頂けるような機会にしている。また、施設の中に閉じこもりがちにならない様に、散歩をはじめ、屋外での体操の機会を設けたり、施設の外(庭)にテントを張り、行事等を行う機会を定期的に設けている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、買い物をはじめとした人との接触を伴う外出は困難な状態が続いてはいるが、感染防止対策を継続して行うとともに、可能な範囲で外の空気を感じられるような対応を行っている。施設内での行事も継続し、単調な毎日にならないよう、工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とし、代表が認知症サポート医とし地域の認知症初期集中支援チームの活動を支えている。日頃から町内の関係機関と連携し、管理者・介護支援専門員も加わり地域の高齢者の相談を受けるなどの役割も果たしている。訪問看護師がほぼ毎日訪れて利用者の健康観察をし、医療との連携もスムーズで、家族の安心に繋がっている。『尊び心から尽くして介護させていただく』の理念を基に、両ユニットのリーダーを中心に個々の職員がアイデアを出し合って利用者の楽しみごとを考え実現させている。コロナ禍で行動制限が多い中でも、できる限り外に出て近辺の散歩をするなど、利用者の心身の健康に繋げる支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット内の壁や事務所内等の、職員の目に入るところへ理念を掲示し、いつでも見えるようにしている。	コロナ禍で消極的な支援にならないように、楽しみ事を続けていこうと、毎朝職員は理念と共に5か条の行動理念を唱和して共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、地域との交流は十分に出来ていなかった。	コロナ禍以前のいろいろな地域交流の機会は、今は殆ど行われていない。社協からの依頼である『ぞうきんプロジェクト』は今年も続けている。町内で集められたタオルを使って利用者たちが雑巾を縫い、それがまた町内の学校に配られる仕組みである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、地域貢献の取り組みに関して、十分に行う事が出来ていなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、運営推進会議の機会を十分に設けて、行うことは出来なかった。	コロナ禍で、2月に1度開催するに止まった。	事業所の取り組みを外部に報告して意見をもらい、外部の声を運営に活かすことは大切なことである。コロナ収束後にスムーズに運営推進会議が開催できるよう、途切れの無い関係継続を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護支援専門員が、要介護認定の更新等の業務を代行して行っている。また、母体法人の医師が認知症サポート医をしており、町内の認知症初期集中支援チームの一員としての活動を行っている。	利用者の介護認定更新申請は介護支援専門員が代行し、管理者は何かあれば直ぐに役場に出向いて報告・相談をしている。町内の認知症初期集中支援チームの一員としての役割は大きい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、原則として行わない取り組みを行っている。ただし、認知症状により、危険行為がみられる場合に限り、ご家族様の了承を得たうえで必要最小限の身体拘束を行う場合もある。	玄関の施錠をしていない。そのため、帰宅願望の強い利用者が外に出ようとする時には、職員も一緒にしばらく外を歩き、気持ちが収まったらホームに戻るようにしている。否定をしない支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成している。職員がいつでも必要な時に見られる様な状態にしている。また、定期的に委員会を開き、研修等も行っている。それにより、職員の再認識にも繋げられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や身元保証を委託する等の権利擁護を必要とする場合には、町と連携し、援助計画の必要性に応じて立案、実行を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明を行う際には、十分に時間を確保し、ご家族様の納得を頂いてから同意のサインを頂いている。また、不明な点等がある場合には、気軽に問い合わせを頂くように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にいらっしゃったご家族様には、積極的にお話をさせて頂くとともに、ご意見を伺い、運営に困りが出来る様に努めている。また、遠方等の理由で来設が難しい場合は、電話や書面も活用し対応を行っている。	コロナ禍で家族との面会もガラス越しの状態が続いているが、元気で散歩している様子を見て頂けるよう散歩の時間を知らせるなどの工夫もしている。何かあれば電話で報告し家族の要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回程度、業務会議を行うことで、業務や運営に関する意見や提案等を聞き取り、反映が出来る様にしている。また、職員から気軽に意見や提案が出来る様な雰囲気づくりに努めている。	ユニットリーダーを中心に何でも相談できる関係性ができている。資格取得にも協力体制はできていて、職員は意欲的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ストレスの出にくい働きやすい環境作りや、休憩がとれる勤務体制を調整し、築けるようにしている。職員の個人個人の仕事に対する向上心や、やりがいを育てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、主に外部研修については十分な機会を確保する事が出来なかった。法人内の研修では、オンラインや回覧も使用し、機会を確保する様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、同業者との交流を十分に行う事が出来なかった。町(地域包括支援センター)主催の勉強会には参加する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時を始めとして、入所後も会話等を何度も重ねることで、ご本人様の考えや思いを傾聴する。それにより、施設内で安心して清潔が続けられ、信頼関係を築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご家族様と面談を行い、その中で困り事や不安、ご家族様の要望・希望等を聞き取る。しっかりとお話を聞いたうえで、サービスや援助内容についての説明を行い。良い関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にご本人様ご家族様と面談を行う。また、主治医や担当ケアマネジャーから情報提供を頂き、問題点の抽出を行う。それらの情報をもとにして必要とされる支援やサービスを見極める様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の今までの生活の中で趣味や特技であった事、また現在の生活を送る中で出来ている事に着目をする。その上で、職員と共に調理や洗濯等を行い、生活する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来設された際には、日常のご様子や変化等を直接報告する様にしている。現在は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、面会制限期間中である場合も、電話や書面を活用し報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、面会、外出、外泊の機会を自由に持つて頂くことが出来なかった。施設の周囲や近所の公園には、感染症対策を行い、出かける機会を確保している。	コロナ禍で思うような外出支援はできなかったが、人出の少ない時期を見計らって馴染みのある斎宮に行って楽しんだ。近所の公園・神社などを日常的に散歩し、下肢の筋力が弱らないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様一人一人が自由に行動出来ると共に、入所者様同士が自由にお話をしたり、交流が出来る様な環境を整えている。また職員は、個人個人の性格や病状等を把握、間に入って支援が行える様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られる場合には、書面等にて情報提供を行っている。また退所後であっても、必要があればいつでもご連絡を頂ければ対応する旨をお伝えする様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で行う会話や表情、行動等から要望等を汲み取れる様にコミュニケーションに努めている。コミュニケーションが困難な方は、職員同士の連携・情報共有を行い、本人様本位の支援を行っている。	日常会話や表情で利用者の思いを汲み取り、支援につなげている。元気な利用者が多く、利用者の要望にはできる限り応えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に担当のケアマネジャー等から情報提供を頂いている。また、ご本人様との会話やご家族様との面会の中で聞き取りを行い、把握が出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人の日常生活の状態や、心身状態の変化が把握できる様に介護日誌へ記録を行っている。それを活用し、職員間の情報共有が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの他、ご本人様・ご家族様からの希望や要望を伺い、入所者様のマニュアルを作成している。それを基準として、ケアの統一が図れる様にしている。	介護支援専門員が作成した介護計画を基に、毎週きめ細かく評価を行い、毎月カンファレンスで職員の意見を出し合い、集約した結果をまとめて介護計画の見直しをしている。記録はきちんと整備されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護日誌等への記録、申し送りによる情報の共有を行っている。マニュアル一覧の評価を行い、介護計画の見直しに活かしていけるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が医療法人である為、医療連携をとり、日々の体調変化等に対して多職種連携を行っている。また、買い物や通院、外出等の日常生活に必要な支援には個別に対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、地域資源を活用した支援に繋がっていくことが十分には出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を決めて頂き、定期受診や体調不良時等、異常のある時は報告を行い、受診等の指示を受けている。また居宅療養管理指導で定期的な主治医の診察を受けられる体制を作っている。	利用者全員が協力医を主治医とし、定期的な訪問診療以外にも度々主治医が利用者の様子見に訪れている。週6日訪問看護師が利用者の健康観察をし、主治医に報告しており、医療連携は万全である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の医療法人と医療連携を行っている。訪問看護ステーションとも契約し、定期的に来訪して頂いている。入所者に異変のあった場合等には、訪問看護師へ相談・報告を行い、指導なども受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時にはカンファレンスを行い、母体の医療法人と多職種連携を取れるようにしている。情報共有や退院後のサポート等も含めて安心して生活を続けて頂ける様に支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについての説明を行い、ご家族様のご意向を伺っている。入所後も、状態の変化に合わせて定期的にご意向の確認を行うようにしている。医療職とも情報の共有を行い、ケアの方針を共有できるようにしている。	『緊急時事前確認書』を状態変化に合わせて度々家族に提出してもらい、最期の意向を把握している。本人・家族が看取りを希望すれば、医師・看護師・介護支援専門員・職員ができるだけの支援を行い要望に応じている。今年度は1名の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の医療法人と連携をとり、状態・情報の共有を行っている。また急変時・事故等がおきた場合にどのような対応を行うのか、についての共通の認識や対応が可能になるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、施設内で避難訓練を行っている。その際には、職員の役割や入所者様への対応の見直しも行き、スムーズな避難が可能になるように努めている。	年に2回消防署立ち合いの下、避難訓練を実施している。近隣の工場にも協力要請ができています。利用者も職員と一緒にDVDを観て学習し、スムーズな避難に繋がっている。備蓄の消費期限の近いレトルト食品などをイベントで試食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様への声掛けの際には、丁寧な言葉遣いを心掛ける様にしている。また、現場内での申し送り時には、インシヤルを使用し、個人が特定されにくくなるような配慮を行い、対応している。	一人ひとりの尊重は、利用者の思いを否定せず話を聞くことから始めている。急に起こってくる帰宅願望にも先ずは一緒に歩き、気持ちを落ち着けてもらっている。利用者のリズムを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者様それぞれの想いや考え方、希望等を尊重し、会話の中からも聞き取れるように努めている。また、入所者様自身が選択し、決定の出来る様な声掛けや支援を行える様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者様一人ひとりが安心・安全にご自身のペースで日々を過ごせる様に支援を行う。また、施設職員側の業務都合に合わせる様な支援にならない様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔や髭剃り等の、日々の身だしなみをきちんと整えられる様に支援を行っている。入浴時には、ご本人様と一緒に衣類を選ぶ等して、本人様の気持ちを尊重できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・昼・夕食は全て職員による手作りで提供を行っている。下準備や後片付けなど、入所者様の出来る事はして頂くようにしている。また、おやつ作り等を一緒に行っている。	食事は全て職員の手作りで、利用者も材料の下準備などできることをして参加している。利用者は食べることが楽しみで、イベント時は前庭にテントを張ってバーベキューをしたり、誕生日のケーキもみんなで手作をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の医療法人の専門職(管理栄養士等)の指導を受けながら、バランスの良い食事や、個人の摂取能力に応じた食事形態での提供、トロミ剤の使用を行える様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの入所者様の状態に合わせた口腔ケアを実施している。協力歯科医の助言・指導も受けながら、口腔衛生の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限り、トイレでの自然な排泄が続けられるような支援を行っている。オムツ類の使用についても、心身状態の変化に合わせ、検討、変更を随時行っている。	布パンツの利用者が両ユニット合わせて9人で、入居してリハビリパンツから布パンツに改善した例もある。水分の摂取には十分気を配り、スムーズな排便につなげている。排泄パターンを把握し声掛けして誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用い、入所者様の排便状態の確認を行っている。食事・水分量の確認、体操や散歩等の体を動かす機会の確保を行い、可能な限り、薬に頼らない排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所者様それぞれの状態に合わせて、入浴介助を実施している。職員の性別によって、入所者様から拒否が無い様に調整を行い、対応を行っている。	毎日午後から3～4人入浴支援をしている。気の進まない利用者には時間や日を変えて対応している。冬場の乾燥対策にはワセリンを使っている。職員と1対1になる時間をゆっくりと楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には外で体操や散歩をすることで日光を浴び、生活のリズムが整えられる様にしている。必要に応じて、居室にて休んで頂く時間等も確保し、本人様のリズムを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者様の個人ファイルに、最新版のお薬情報を常に入れ、常時確認が出来る様にしている。臨時薬が処方された場合には、一覧表に記入するとともに申し送りも行い、職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者様それぞれの能力や性格に合わせて、洗濯や食事の用意等の役割を持って頂けるように支援を行っている。おやつ作りや居室飾り等でも、それぞれに出来る事をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、多方面への外出の機会を十分に確保する事は出来なかった。近くの公園や、人込みにならない場所へは、定期的に出かけている。	少し走ればいろいろな観光名所や公園があるので、なるべく人出の少ない時に大型の車でみんなで外出したり、少人数で出掛けることもある。天気のいい日には前庭で日向ぼっこをしたり、近所の神社などには絶えず出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、買い物等の外出には出掛ける機会を持つことが出来なかった。買い物の希望がある際は、事前にご家族様の了承を得て、職員が代行する時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様とのお手紙のやり取りは、ご家族様のご協力を得たうえでやっている。また、お電話についても、ご家族様の同意を得たうえで、時間帯も考慮し、実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、施設内・各居室内の清掃と環境整備を行い、清潔な環境を維持できるように努めている。居室前や玄関等に、季節ごとの飾りやお花、行事の写真を飾り、季節を感じられる空間づくりを心掛けている。	事業所の壁面や各居室の入り口には、色とりどりの折り紙で作った飾り物が所狭しと飾られている。すべて利用者の手作りである。職親制度を利用して障害のある男性が事業所のモップかけ・ガラス拭きなど、何年も通って来て利用者と同様に馴染みになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテレビ、本等を置いており、入所者が自由に過ごして頂ける空間・環境の整備を行っている。また、施設の庭にもベンチを配置し、散歩の途中や少し外に出たい時などに使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に、可能な限り、使い慣れた物品(寝具や衣類等)を持ってきて頂けるようにご家族様に依頼している。居室内の家具類等の配置も、本人様の使いやすいようにして頂いている。	居室にはベット・エアコン・クローゼットが設備されており、その他の家具は利用者が家庭で使い慣れていた物を持ち込んでいる。TVを置いている利用者もあるが、日中殆どリビングで過ごし、TVもみんなと一緒に観て過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリーになっており、手すりの設置や、車いす対応のトイレなども完備している。居室やトイレには、名前や場所名を掲示し、目で見てわかる様な対応にしている。		